

# 平成23年度 京都府立医科大学決算概要

平成24年7月  
事務局経理課

**【決算概要】**

- 平成23年度決算は、経常費用304億9千5百万円、経常収益306億8千5百万円であり、**経常損益は、1億9千万円の黒字。**
- 運営費交付金が毎年度減少している一方で、附属病院収入の増加により大学全体の収益は増加。
- 人件費は、退職手当が2億1千3百万円減少する一方、研修医、専攻医、大学院生の診療謝金、手当の増加等による非常勤職員人件費が1億7千万円増加。また、共済保険料率の改定に伴う法定福利費が1億1千万円増加し、人件費全体としては、1億6百万円増加。
- 教育経費は、看護実習室の修繕工事や教育関係減価償却費の減少に伴い微減。
- 研究経費は、新たな研究助成金の獲得、研究機器のリース料等の増加により、前年度比10.6ポイント増加。
- 診療経費は、診療実績の大幅な伸びに伴い、医薬材料費等の経費が5億1千万円増加するとともに、平成23年11月にフルオープンした外来診療棟の整備関連経費4億4千8百万円が増加し、前年度比11.6ポイントの大幅な伸びとなっている。
- 平成22年度は、過年度教職員人件費を臨時損失として計上。

(単位:百万円)

	23年度	22年度	増減
教育経費	249	250	▲1
研究経費	1,066	964	102
教育研究支援経費	150	111	39
診療経費	13,114	11,755	1,359
人件費	14,840	14,733	107
受託研究・事業費	585	526	59
一般管理費等	487	456	31
<b>経常費用計</b>	<b>30,495</b>	<b>28,798</b>	<b>1,696</b>

	23年度	22年度	増減
運営費交付金収益	4,679	4,940	▲261
学生納付金収益	752	754	▲2
附属病院収益	22,030	20,553	1,477
受託研究等収益	758	622	136
寄附金・補助金収益	1,335	1,075	260
その他収益	1,129	1,192	▲63
<b>経常収益計</b>	<b>30,685</b>	<b>29,139</b>	<b>1,546</b>

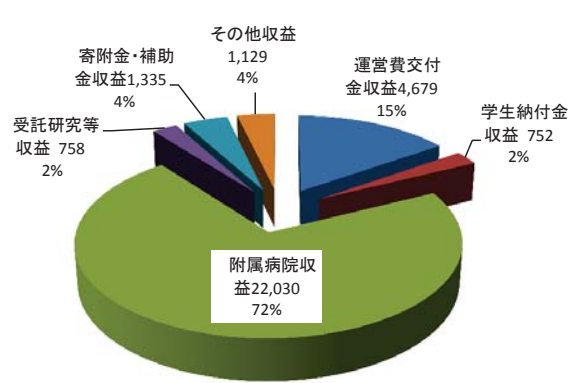
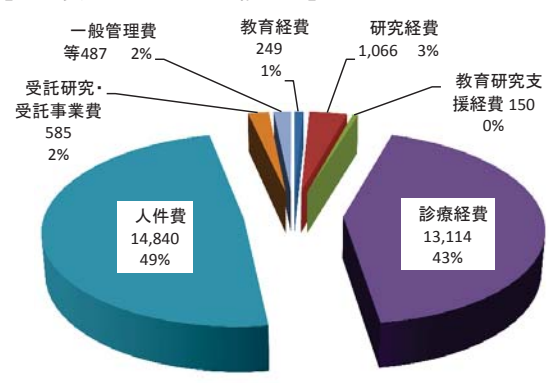
注) 京都府立大学法人運営費交付金 6,867百万円  
(上記収益化額+償還負担金等)

経常損益	190	340	▲150
臨時損失	1	149	▲148
当期純利益	197	194	3
当期総利益	216	200	16

臨時利益	7	3	4
目的積立金取崩額	19	5	14

注) 各金額は単位未満を切り捨てしているため、計は一致しない。

**【経常費用・経常収益の構成比】**



## 京都府立医科大学の財務状況の特色

### ◆ 事業費総額等

- ・ 京都府立医科大学及び附属病院の事業費は、平成20年度の法人化以降、285億円前後で推移していたが、平成23年度は附属病院収入の大幅な増加及び平成23年11月にフルオープンした外来診療棟の整備関連経費の増加に伴い、平成23年度の事業費は約305億円となっている。
- ・ 事業費のうち、人件費が約5割、診療経費が約4割で、本学の事業費の大半を占めている。
- ・ 運営費交付金は年々減少しているものの、外部資金や附属病院収入等の増により、事業費を確保し、平成20年度からの4年間は経常損益は黒字となっている。

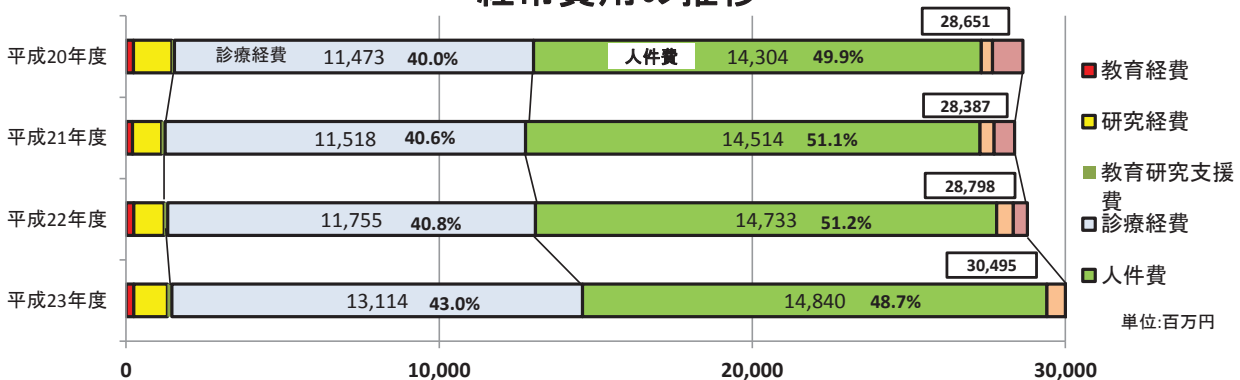
### ◆ 人件費

- ・ 人件費は、附属病院の診療に従事する研修医、専攻医、大学院生等の診療謝金、手当等の増加により、非常勤職員人件費が大幅に増加するとともに、共済組合保険料率の改定に伴う法定福利費が増加し、人件費が昨年度に比べ、1億6百万円増加している。
- ・ なお、人件費のうち退職手当は、退職者数の減少に伴い、前年度に比べ2億1千3百万円減少している。

### ◆ 附属病院収益

- ・ 附属病院収益は、経営コンサルタント会社による病院収入、経費の分析等を行うなど、経営改善に一層取り組んだ結果、前年度に比べ14億7千6百万円の大幅増となった。今後は引き続き収入増に取り組む一方、人件費を含む経費削減の取組が課題となっている。

### 経常費用の推移



### 経常収益の推移

